

タレックス光学工業株式会社

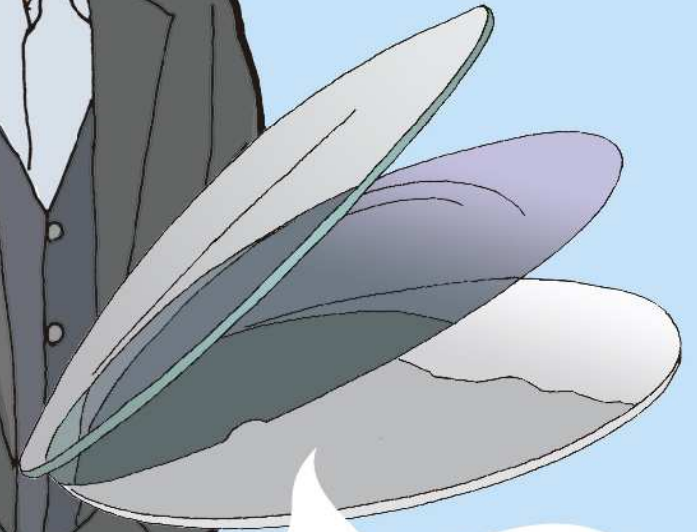
創業者である祖父の姉がレンズの研磨工場に嫁ぎ、その工場で祖父が「稚奉公」の後、のれん分け。レンズの研磨を営む田島レンズ製作所を創業しました。戦後、レンズがガラスからプラスチックに変わり、家業を継いだ父がコンタクトレンズか偏光レンズかいずれに進むべきか悩んだ時に、神戸などへ出かけ情報収集。その時に、海外では人気のサングラスだろうと偏光レンズという道を選びました。ただ、その当時は、度つき眼鏡は高額でレンズも花形、それに比べサングラスは色眼鏡と呼ばれ下に見られていたそうです。それでも田島で研磨した光学レンズはゆれや歪みが少ないと海外でも評価が高く、海外を相手に100%輸出。20年ぐらい前に円高により、国内市場に展開しました。

レンズの良さは自信があるのですが、国内では誰も知らない。レンズだけで1万円、フレーム付けると3万円以上という価格も、どう伝えるか苦労しました。人気に火がついたのはフィッシング。そこから認定プロショップが広がってきました。性能への徹底したこだわり、技術力を追求したノウハウがあるからこそ、多くの方から愛されるサングラスを作れるんだと思います。

株式会社タレックス
代表取締役社長 田村真三さん

メガネレンズ発祥の地、田島で
世界で唯一の偏光レンズを作り続けます。

株式会社タレックス
プロダクトマネージャー 藪下剛さん



レンズの間に挟み込んだ
雑光カットフィルターが
眼精疲労だけでなく、
身体の疲れや
ストレスも軽減する。

メガネレンズ発祥の地で生まれた 世界で唯一の偏光レンズ製造

生野区田島は幕末から続く眼鏡レンズ発祥の地。その歴史ある田島で1938年に創業。1966年、社長の父である2代目が今後はサングラスの需要が増える予測し、他社に先駆けてサングラス用の偏光レンズを製造した。偏光レンズとは、反射光やまぶしさをカットし快適な視界を確保する光学性能に基づいたもの。独自に開発した薄さ0.03mmという世界で唯一の「雑光カットフィルター」を使用。技術を集約した高性能なレンズを製造販売する。

サングラスの用途は、ファッション性とまぶしい光をカットするという面と2種類ある。同社は、後者の必需品としてのサングラスを提供する。レンズ製造が短時間かつ量産が可能な金型成型やプレス加工が可能になった現在でも、同社の偏光レンズはそれとは真逆。最終仕上げまでの全工程のうち60%以上を手作りしている。それは、「見え方の質」にこだわり、有害な光による目の負担を軽減し、日差しの強い中でもクリアに見えることを追求しているからだ。また、高度な技術と職人技でゆがみのないレンズを製造。偏光レンズ、薄さ0.03mmという雑光カットフィルターの組み合わせが生むサングラスは、ドライバーやスポーツ選手、ドクター、トラック運転手、釣り人など多くの方から選ばれている。

そのクオリティを体験してもらおうと、直営店では一般的なサングラスとの違いを体感できるコーナーを充実。「体験お試しレンズ」を持って店外に出ると、よりクリアに見える視界に驚く。医学的にも証明された疲労軽減にもいいレンズ。今や田島を代表し、田島レンズの魅力を広く伝える企業だと言える。

タレックス光学工業株式会社

<http://www.talex.co.jp/>
〒544-0011 大阪市生野区田島4-5-6
TEL 0120-608-860

事業内容 / サングラス用偏光レンズ製造、販売

目に優しいレンズにこだわり続ける企業として、大阪市立大学大学院医学研究チームとの共同研究により、「疲労予防効果が顕著である」と実証されました。

大量生産を夢見ることは
あります。
でも、それを優先すると
品質バランスが
向上しません。

0.03mmという極薄のフィルターを
レンズとレンズで完全に密着した状態で
挟み込むことで、限りなく目に優しい
視界の実現できました。

我が社の 自慢 年末感謝祭を開催！ シェフの豪華料理を堪能！

本社ショールームに併設の「TAJIMA COFFEE」は、一流ホテル出身のシェフが料理をサーブ。年末の従業員を招待して行く感謝祭では、豪華なフルコースを提供。美味しい料理とドリンクで、大盛り上がり。